

父親の読み聞かせに関する意識調査

橋本 藍香

近年では「ワーク・ライフ・バランス」への関心が集まっており、男性の子育てが推奨される時代になってきている。それにも関わらず育児に積極的に参加している父親でも「読み聞かせ」は優先順位は低く、依然として母親が中心になって行われている。しかし、父親の読み聞かせには、母親とは違った視点での絵本選択をすることで幅広い内容の絵本に触れ合えたり、絵本の中には男性の声の方が子どもに好印象を与えるものもあるなど、メリットも多く存在する。そこで本研究では、父親の読み聞かせに着目し、その実施率が低い要因を明らかにすることを目的とする。

手法として、アンケート調査とインタビュー調査を用いた。アンケート調査はつくば市の幼稚園 13 園に通う園児を持つ父親 1,038 名を対象として行った。アンケート用紙は、幼稚園を通して配布し、回収は園で回収を行った 1 園を除いて郵送で行った。アンケートは全 11 項目あり、読み聞かせの実施状況と意欲を聞く項目と、読み聞かせの実施率を下げる要因を家族構成や現在の読み聞かせ状況への満足度などによって聞く項目を設けた。また、アンケートの中でインタビュー調査に協力しても良いかどうかを尋ねる質問を入れた。

アンケートの回収率は 34.7%(361 名)であった。その内 32 名がインタビュー調査に同意し、調整の結果 5 名に対して実施した。

アンケート集計の結果、読み聞かせを時々しか行わない、もしくは全く行わないと回答したのは 329 名中 232 名で 70.5%であった。また、分散分析の結果から父親の読み聞かせ実施率が低い要因には 1) 父親自身が読書が嫌いであること、2) 母親が読み聞かせを行っていないことの 2 点があることが明らかになった。それぞれの項目をインタビュー調査を考慮して詳しい理由を検討したところ、1) については、読み聞かせに対して無意識に苦手意識を持つので疎遠になってしまうことがわかった。一方、2) については、母親が読み聞かせを率先してやらないことで家庭内にそもそも読み聞かせをする環境が整っていないことが原因となることがわかった。ただし、5 人のインタビュー調査から各家庭で様々な事情があり、父親の読み聞かせ実施が少ない理由は、より多様な側面から調べる必要があることがわかった。

本研究より、父親の読み聞かせ実施率が低い要因を一部明らかにした。今後の課題としては、インタビューで見えてきた要因についてさらに詳しく調べるアンケートの実施があげられる。

(指導教員 松村敦)